2018 キャラバン・メイトの活動支援について

西成区キャラバン・メイト連絡会は、キャラバン・メイトの活動支援を積極的に実践しています。
キャラバン・メイトが講師役として講座を開催できるようになるまで、全面的にサポートします。

キャラバン・メイト養成研修を受講したのち、自分たちの地域において、一人ひとりが認知症サポーター養成講座を開催し、キャラバン・メイトとしての活動を展開していくことができるように、大阪市内 24 区どちらの連絡会に所属しているキャラバン・メイトに対しても、無所属のキャラバン・メイトに対しても、分け隔てなく、さまざまなサポートを行っています。

スタートアップ研修

まだ登録して直ぐのキャラバン・メイトに対して、講座の企画を立案する段階から、講師役として講座の進行がイメージできる予行演習や模擬講座、 受講対象者となる地域住民等へ周知するための広報活動、 開催計画表や実施報告書の書き方や提出の方法など、 講座を開催する前から開催した後まで、活動の過程や事務手続きを丁寧にわかりやすく伝えます。
以上のことを踏まえ、「地域の実状や対象者の層に合わせて実践できること」「ひとりでも自信を持って実践できるようになること」を目標に掲げ、個々のキャラバン・メイトに合わせて研修を進めます。
■西成区キャラバン・メイト連絡会が開催する認知症サポーター養成講座において、講師役となるための共同開催コース（4 時間）
■会場の手配や設営などの準備も含めて自ら認知症サポーター養成講座を開催して、講師役となるための自主開催コース（6 時間）

スキルアップ研修

キャラバン・メイト養成研修の受講者は、認知症の基礎知識があることが前提ですが、全員がはじめから認知症サポーター養成講座の受講者（地域住民）に対して、その知識等を上手に伝えることができるわけではありません。
キャラバン・メイト養成研修では、認知症サポーターに伝えたいこと「標準教材 第 1 章 認知症を理解する」の講義に約 2 時間を割いていますが、実際の認知症サポーター養成講座では、その内容を約 60 分程度に要約し、受講者（地域住民）に伝える必要があります。
キャラバン・メイト養成研修の受講者から、認知症サポーター養成講座で話すべき内容について具体的なイメージがつかみにくいというアンケート結果も寄せられています。
以上のことを踏まえ、この研修では、認知症サポーター養成講座の講師役として留意する点について共に考え共に学びます。（3 時間）
1. それぞれの地域において認知症サポーターを養成することを念頭においた講義にする。
2. テキスト・教材のページに沿った講義を組み立てる。
3. 認知症サポーターに標準教材の内容を伝えるときに、どのように伝えればよいかという視点を考える。
4. 「オレンジリングがもつ意味」について、認知症サポーター養成講座で必ず伝える。
5. 独自スライド・配布資料等の使用は参考程度にする。
6. テキスト・教材の「ここは絶対に外してはいけない」「ここはポイント」といった箇所を明確にする。
7. 認知症サポーター養成講座で使えそうなヒントを随所に盛り込む。

フォローアップ研修

■午前の部（2 時間）キャラバン・メイトとして継続した活動を実践する上で、「自己肯定感」を高く保つことは重要です。基本的な知識を学びます。
・キャラバン・メイトのための自己肯定感講座（セルフチェック・ワーク・シェア）
■午後の部（3 時間）認知症の人やその家族が安心して暮らせるまちづくりを目指すために、先ずは認知症の人が生活している地域を知る必要があります。
その上で、地域の実状に沿った認知症サポーター養成講座の構成を考えます。そして、講座の講師役に留まることなく、地域においてキャラバン・メイトとしての活動が展開できるように学びます。
・認知症の人を地域で支える視点（地域包括ケアシステムとは・地域の社会資源を知る）
・気づきのある認知症サポーター養成講座（対象者で変わるカリキュラム・受講者が身近に感じる活動事例）
・地域で活動するためのディスカッション（個人ワーク・グループワーク）